

事務事業チェックシート

評価年度	H24	H25	H26	対象外
		○		

事務事業No 18 事業名 大規模災害用備蓄対策事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	○
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計	一般会計		
	款	総務費		
	項	総務管理費		
	目	総合防災費		
	大事業	総合防災事業		
事項	大規模災害用備蓄対策事業			
「3つのキーワード」との関連性				
いのちを守る	人と文化を育てる	ふるさと力を高める	該当せず	
○				

分野別目標	1	安心して、安全に暮らせるまち
政策	1	総合防災対策の充実
施策	3	災害等に強い体制づくりの推進
取組	4	物資確保体制の確立
事業種別	継続	主な事務事業 ○
事業期間	～	
事業実施の根拠法令		
関連個別計画	和歌山市地域防災計画	
担当課・担当課長 (Tel)	総合防災課	原田 友志 (435-1199)
関連課		

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か)	事業内容				
	東海・東南海・南海地震などの大規模災害時に備え、最低限必要な物資の備蓄を行う。	食料、生活用品、資機材等の備蓄を行っており、備蓄数は目標値を達成している。備蓄の主なものとして、アルファ化米 (5年)、乾パン (5年)、飲料水 (5年)、粉ミルク (1.5年)、毛布、オムツ、生理用品、ブルーシートなどを行っており、消費期限のあるものは有効活用しながら順次入れ替えている。				
実施内容	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	①備蓄物資の調達 アルファ化米9,600食、乾パン20,000缶、飲料水20,000本、粉ミルク600缶、毛布8,400枚、アルミ寝袋15,000枚、トイレ処理セット60,000回分、ブルーシート15,000枚、オムツ1,000枚、生理用品4,700枚、緊急時浄水装置8台、発電機セット42台 ②備蓄物資の管理 (期限切れに伴う有効活用を含む)	①備蓄物資の調達 アルファ化米9,600食、乾パン4,800缶、飲料水20,000本、粉ミルク600缶、マスク6,000枚、公共下水道接続型仮設トイレ15台 ②備蓄物資の管理 (期限切れに伴う有効活用を含む)	①備蓄物資の調達 アルファ化米9,600食、乾パン4,800缶、飲料水20,016本、粉ミルク600缶、ブルーシート2,840枚、公共下水道接続型仮設トイレ65台、FM緊急警報放送対応AM/FMラジオ100台 ②備蓄物資の管理 (期限切れに伴う有効活用を含む)	①備蓄物資の調達 アルファ化米9,600食、乾パン4,800缶、飲料水20,016本、粉ミルク600缶、公共下水道接続型仮設トイレ105台 ②備蓄物資の管理 (期限切れに伴う有効活用を含む)	①備蓄物資の調達 アルファ化米9,600食、乾パン4,800缶、飲料水20,016本、粉ミルク600缶、公共下水道接続型仮設トイレ105台 ②備蓄物資の管理 (期限切れに伴う有効活用を含む)	

2 事業コスト

	平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算	計画	決算	計画	決算
事業費	91,389	71,046	9,296	8,746	7,619	12,532	31,474	18,658	14,836	
伸び率 (%)	-	-	-89.8%		-18.0%		313.1%		-52.9%	
人件費	常勤職員	11,945	10,900	11,945	11,945	11,945	11,945	13,420	13,420	
	非常勤職員	53	759	661	661	661	661	447	447	
	小計	11,998	11,659	12,606	12,606	12,606	12,606	13,867	13,867	
国庫支出金	87,338	69,365								
県支出金	431	454	1,746	2,383	1,747	1,747		2,969		
市債										
その他										
一般財源 (税等)	3,620	1,227	7,550	6,363	5,872	10,785	31,474	15,689	14,836	
所要人数	常勤職員	1.56	1.42	1.56	1.56	1.56	1.56	1.56	1.81	1.81
	非常勤職員	0.04	0.37	0.33	0.33	0.33	0.33	0.28	0.28	
主な予算内訳	備蓄食料品 (アルファ化米、粉ミルク、カンパン) 3,215千円、備蓄毛布真空パック再処理567千円、公共下水道接続型仮設トイレ10,249千円									

3 目標及び実績

		指標名及び達成状況			平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
活動指標	備蓄食糧数 (アルファ化米及び乾パン)	年度目標値				69,120	72,000	72,000	72,000	72,000	
		実績値				70,560	69,120	74,206	75,902		
	単位	食	全体目標値	72,000	全体目標達成度	102.3%	年度別達成度	102.0%	96.0%	103.0%	105.4%
	備蓄毛布	年度目標値				24,000	24,000	24,000	24,000	24,000	
実績値					17,339	17,339	17,339	17,339			
単位	枚	全体目標値	24,000	全体目標達成度	101.4%	年度別達成度	72.3%	72.3%	72.3%	72.3%	
成果指標	食糧の備蓄率 (アルファ化米及び乾パン)	年度目標値				96	100	100	100	100	
		実績値				98	96	103	105		
	単位	%	全体目標値	100	全体目標達成度	102.0%	年度別達成度	100.0%	96.0%	103.0%	105.0%
	備蓄毛布の備蓄率	年度目標値				100	100	100	100	100	
実績値					72	72	72	72			
単位	%	全体目標値	100	全体目標達成度	100.0%	年度別達成度	72.0%	72.0%	72.0%	72.0%	

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性（担当課評価）

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>東海・東南海・南海地震発生時の避難者想定数2万4千人として備蓄。                      備蓄方針として、輸送手段の障害から輸送ルート等が確立するまでの3日間に必要とされる「生命の維持と最低限度の生活の維持」に必要な物資を備蓄し、概ね目標を達成している。（備蓄数量：市備蓄1/3、県・流通備蓄1/3、市民備蓄1/3）                      避難者想定が変更された場合、備蓄の見直しが必要である。</p>
<p>「見直し」                      「改善」案</p> <p>※上記、「今後の方向性」において、「事業内容」、「コスト投入」の方向性が共に「<u>現状維持</u>」以外の場合は記載</p>	